ISSN　1883-3748

環境教育研究マネジメントセンター

News Letter

第１号　**2008.11.20**

長崎大学環境科学部
URL: http://www.env.nagasaki-u.ac.jp/
Tel&Fax:095-819-2720

■センター長ごあいさつ

本センターは、2007 年 7 月に環境科学部の学部内施設として設置された。雲仙市をフィールドとした E キャンレッジプログラムだけではなく、学部の活動と地域や学外の活動との連携を強化し、教育研究を活性化することを目的とした組織である。

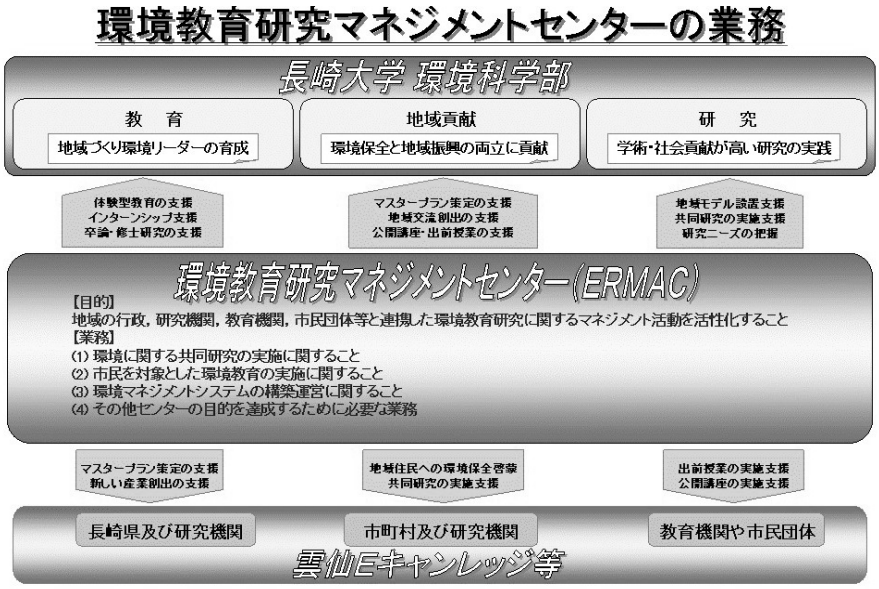
環境とはそもそも、個としての人間とその外部との関係であり、外部には、人、社会、大地、自然や生態などがある。人と人(社会)との関係を豊かにし、人と自然との関係を改善していかなければならない。

このセンターは、地域との連携を強化し、地域が求める環境学習や調査研究を住民や行政とともに形にしていくとともに、地域を環境科学部の教育研究のフィールドとして活用していくための支援をする役割をもっている。

本年 10 月には雲仙市の小浜バスターミナルビル 2 階に「雲仙 E キャンレッジ交流センター」がオープンした。地域との連携のための小さな一歩が刻まれた。このニューズレターは、これに続く歩みを、大学内外の多くの人に知っていただき、そして共に歩みだしたいという試みの一つである。どうぞご一読ください。

センター長　早瀬 隆司(環境科学部教授・環境政策)

■センターのご紹介



「環境」と一口に言ってもその対象はさまざま。自然環境でいえば、火山・温泉・海洋・生物などの恵みを私たちは受けて暮らしている。その一方で、災害・汚染など自然の脅威と人間はいかに共生していけるのかも重要な課題である。そのなかでわれわれ人間が生みだしてきた歴史・民俗・言語など地域の特性に立脚した人文(人間)環境が形づくられ、それらは未来に継承されていく。

環境科学部に蓄積されてきたこれら知の結晶は、地域に還元されてさらに輝きを増すものである。そのような視点から、環境科学部の人間社会環境学系・環境保全設計学系のすべての教員が参画して、地域と連携した講座やワークショップ、調査研究等のプロジェクトを進めていく。センターはおもにそのマネジメント役を担う。その一部として、雲仙 E キャンレッジプログラム(雲仙市を対象とした連携事業)・西海市雪浦地区「荒れ地に花を咲かせま SHOW♪」・まちエコ講座がある。ぜひ、多くの地域の方に本センターを活用していただきたい。

【もくじ】

■センター長ごあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
■センターのご紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
■雲仙Eキャンレッジ交流センター始動！　・・・・・・2
■連載　長崎まちエコ探検①　滑石のクスノキ　・・・・・・3
環境科学部ゼミめぐり①　中村(修)ゼミ　・・・・3
■書架　『旅する長崎学 8』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

■雲仙Eキャンレッジ交流センター始動！

10 月 3 日(金)、「雲仙 E キャンレッジ交流センター」の開所式が挙行された。奥村慎太郎雲仙市長の揮毫による看板の除幕式につづき、岡山ユネスコ協会理事の池田満之氏を招いての開所記念基調講演「持続可能な社会づくりのための地域教育活動の実例―岡山市京山地区の取組―」があった(右写真)。

本交流センターは、今年 3 月より長崎県環境部・雲仙市の協力を得て、環境科学部が無償で借り受けており、環境教育の拠点となることが期待されている。

それをうけて、同月 25 日(日)に開所記念公開講座を開催した(下写真)。講師には、本学 3 名の先生方を迎えた。

第 1 部の演壇に立った本学部の佐久間正教授は、金子みすゞの詩を長年研究されており、彼女の詩のなかに表現されている言葉は、豊かな感性と知性に裏づけられた「環境問題」への提唱があるという。実際に彼女は、「浜辺の石」「上の雪」「下の雪」「魚」「両親を亡くした鯨」「土」「草」などを自然物（植物や生物）の視点で詩に表現している。佐久間教授は、ここに人間中心的な文化的進歩や利己的な人間中心主義的な現代を暗示するものがあると述べた。彼女のそういった詩の世界や思想を背景として、これからの科学的技術の発展や環境政策に向かうべき、という大変興味深い内容だった。

第 2 部の松坂誠應教授(医学部保健学科)は、高齢者の転倒予防と異業種が協力するチームワーク研究に取り組んでいる。「いつまでも元気で過ごすコツ」と副題を掲げ、転倒予防のためのハード・ソフト両面の環境づくりの大切さや、普段からの地域のつながりや支え合いが、高齢者に生きがいと自信を与えると力説された。○×形式による、受講生みずからが転倒の危険因子をどの程度もっているのかを知れる設問集も配布され、老若男女を問わずこのような課題に関心を持てたようだ。

第 3 部は本学部の馬越孝道准教授(環境教育研究マネジメントセンター・副センター長)が、自然災害を軽減するための方策について雲仙普賢岳や島原半島全域を主な対象として得られた成果をもとに話された。雲仙普賢岳の噴火の特徴は「とくに始まりと終わりがはっきりしている」ことや、島原半島を南北に走る千々石断層は、すぐに M7 クラスの地震が起きることはないが、日ごろの防災意識が大切といった点が印象に残った。小浜地区は、温泉による熱量が日本一豊富で、自然の恵みをうける一方、ときに大きな災害にあってきた。馬越准教授は、いかに自然と人間の生みだす環境とが共生できるのかを考える際に、雲仙は世界的にも知られるフィールドであると話していた。

雲仙Ｅキャンレッジ交流センター

宣伝や告知の期間が充分でなかったにもかかわらず、約 40 名の受講生を迎えることができた。最後に、早瀬センター長より、受講生一人ひとりに「修了証書」が手渡され、すべての内容を無事に終えることができた。

今後、歴史・経済・文化遺産・温泉・火山・福祉など、さまざまなテーマで E キャンレッジ交流センターでの市民向け講座を定期的に実施していく予定である。開所記念公開講座にかかわったすべての方々に、厚くお礼申し上げる。

(小川)

■連　載

長崎まちエコ探検①　滑石のクスノキ

街なかを歩いていると、何気ない景観に意外な歴史や人びとの思いが詰まっているのを知ることがある。本コーナーでは、そのような長崎の隠れた自然・歴史・文化などのさまざまなスポットをご紹介する。

長崎市滑石(なめし)1 丁目の県道沿い(旧・時津街道)に、樹齢百年超と思われるクスノキがある。1945 年の原爆によりこの木も黒焦げとなったが樹勢を盛り返した。根元に開いた空洞を塞ぎ、滑石川(大井手川)の水面との組み合わせが都市のなかの自然景観として映える。

2007 年、市立滑石中学校生徒一同により案内板も建てられた。今年は 3 年生が中心になり校区の原爆遺構をめぐるコースを提唱。世代を超えて語り継がれる貴重な地域資源である。

—学生リレー企画—環境科学部ゼミめぐり ①　〈中村(修)ゼミ〉

中村修ゼミ室は、食育・学校給食、環境マネジメントシステム、省エネ・ごみ授業、有機物循環など、それぞれが自分の興味のある分野にて、多岐にわたる研究を行っています。

ここの特徴は、個々の研究テーマに現場があることです。教育の現場や行政の現場に実際に足を運び、現場の方の意見を聞いたり自分で現場を見ながら問題を発見し、その解決方法を探ります。その過程で、数々の文献にあたったり研究室内で、もしくは現場の方と多くの議論を行います。

私は、長崎県立国見高等学校を現場にさせていただき、高校における EMS の取組みについて研究を行っています。現場の声に答えていきながら、取組みを客観的に整理・分析するという作業を行っています。

ここは、現場に関わりながら、そこで必要とされる様々な知識・技術を身につけることができる、そんな場です。　(4 年　松田香穂里)

地域イベント告知板　雲仙市産業まつり ～秋の収穫祭～

◆開催日　2008 年 12 月 7 日(日)　9:00～15:30　(小雨決行)

◆おもな内容　・物産販売(雲仙ブランド、雲仙牛、認定農業者、青年農業者、商工会、牛乳消費拡大、雲仙スィーツ、小浜ちゃんぽん、霧島市コーナーほか)
・姉妹都市紹介(韓国全羅南道求礼郡)　・ステージ・会場イベント

◆会場　小浜湯遊道商店街、島鉄ターミナル横広場ほか

■お問い合わせ先　雲仙市産業まつり実行委員会事務局(雲仙市観光物産まちづくり推進課)
〒859-1107 雲仙市吾妻町牛口名 714　Tel 0957-38-3111　Fax 0957-38-3514

■書　架

『旅する長崎学８(近代ものがたりⅡ)』

(長崎県企画、長崎文献社刊、2008 年、￥600)

九州・山口の近代化産業遺産群がユネスコの世界遺産暫定リスト入りを果たした。この本の表紙にも「長崎は野外産業博物館」と記されているが、まさに今回の結果は、人間が積み重ねてきた社会環境を再評価する点と、地域づくりの手法として注目を高めてきた「まち歩き」への期待という点が大きく貢献したといえる。

ただ、本書の面白みは、世界遺産になろうとするものが決して特別な存在であるものではなく、長崎という街の近代化によりわれわれ庶民の生活も変化していく過程で、現代の景観のなかに身近に残されていると位置づけていることにある。また、自然環境・人間環境さまざまな地域資源を、箱モノに収集するのではなく、ヒトが現地を訪ねてまわる「地域まるごと博物館」(エコミュージアム)の考え方が、長崎各地でも実現できることを感じさせてくれる一冊である。全ページカラーというのもうれしい。

事務局だより

新スタッフ紹介

・深見　聡　准教授(センター専任教員、10 月 1 日付)…鹿児島市出身。2001 年にNPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会を設立。今年 9 月まで初代代表理事を務めた。専門は、人文地理学・観光学。みなさんにひとこと「環境科学部の一員として、これまでの地域活動の経験と初心を忘れず頑張ります。」

・小川明子　事務補佐員(センター職員、10 月 21 日付)…大村市出身。本学部の卒業生。センターが環境省より受託された「国連持続可能な開発のための教育の 10 年促進事業」の業務に従事。みなさんにひとこと「地域づくりに少しでも貢献できるよう精一杯頑張りますのでよろしくお願いします。」

センター情報をお手軽に

・メールマガジン…だれでも、どこにでもセンターからのお知らせをお届け。毎月 1 回の発行予定。詳細は、本紙次号でご案内。

・ニューズレター…本紙を季刊号として 2、5、8、11 月の各 20 日付で発行予定。学内のほか、長崎県・雲仙市の主要公共施設に設置。また、センターホームページから PDF ファイルでダウンロード可能。

イベント案内

雲仙Ｅキャンレッジ交流センター公開講座

地域資源を活かした観光まちづくり－大河ドラマ『篤姫』に学ぶ－

■日時　2009 年 2 月 19 日(木)　11:00～12:00(開場:10:30)　**■定員**　30 名

■講師　深見聡(長崎大学環境科学部准教授)　**■会場**　雲仙Ｅキャンレッジ交流センター(雲仙市 小浜バスセンター2 階)

■申し込み方法　資料準備の都合がありますので、2 月 17 日(火)までに電話・ファクス・メールでお申し込み下さい。

■申し込み先　**深見研究室**　**Tel&Fax.095-819-2720，090-9486-1556，fukami@nagasaki-u.ac.jp**

主催／長崎大学環境科学部　共催／雲仙市　　**事務局**／環境科学部環境教育研究マネジメントセンター

本企画についてのお問い合わせ先／上記の申し込み先に、お気軽にどうぞ！

□■編集後記■□

創刊号をお届けします。本センターの情報紙として、ぜひ次号以降もご愛読よろしくお願いします。／センターをはじめ環境科学部では、各学校への出前講義を行なっています。お気軽にお問い合わせください。また、E キャンレッジ交流センター等を会場にした連続講座の充実を図っていきます。どうぞご期待ください。／本紙に対する皆様からのご寄稿・要望もお待ちしています。どんどんお寄せください。次号は 2 月 20 日付で発行予定です。　(深見)

環境教育研究マネジメントセンター *News Letter*　(第 1 号)
2008 年 11 月 20 日発行（編集長：深見 聡）
長崎大学環境科学部環境教育研究マネジメントセンター
〒852-8521 長崎市文教町 1-14
URL http://www.env.nagasaki-u.ac.jp/
Tel&Fax 095-819-2720(深見聡研究室)
E-mail fukami@nagasaki-u.ac.jp
印刷：コマツ印刷